



# 図書館総合歴史講座関連展示

## 載仁親王 慶応元(1865)年～昭和20(1945)年

伏見宮<sup>くにおい</sup>20代邦家親王の王子として誕生、幼名は易宮<sup>やすのみ</sup>と称し、醍醐寺三宝院を相続する。明治4(1871)年に伏見宮に復籍、翌年閑院宮を継承し、明治11(1878)年に親王宣下、載仁と命名され、皇族及び陸軍軍人として生涯を全うした。

明治10(1877)年陸軍幼年学校に入学。幼年学校卒業後の明治15(1882)年にフランスへ留学し、サンシール陸軍士官学校、ソミュール騎兵学校を経て、フランス陸軍大学校へ入校した。明治24(1891)年に帰国し、日清戦争及び日露戦争へ従軍した。長い海外経験のため、語学が堪能で洋風の生活を好んだ。大正10(1921)年には、皇太子裕仁親王のヨーロッパ外遊に補導役として随行し、マナーや語学を指南するなど重要な役割を果たした様子は「載仁親王日記」に綴られている。

大正元(1912)年に陸軍大将、大正8(1919)年に元帥となり、昭和6(1931)年に参謀総長に就任。昭和11(1936)年の二・二六事件発生当時の親王の様子は「御転地日記 第二号」にみえる。昭和15(1940)年には軍務から退き、昭和20(1945)年5月に小田原別邸で薨去し、国葬を賜った。

## 春仁王 明治35(1902)年～昭和63(1988)年

春仁王は載仁親王の第2王子として出生し、幼少期の健康上の理由により大正2(1913)年に小田原に移り住み、大正5(1916)年に小田原中学校(現神奈川県立小田原高等学校)に進学した。在学中の王が学友と交わした書簡や修学旅行の日記からは、王が小田原でのびのびとした時を過ごした様子が偲ばれる。

小田原滞在により、王は健康を回復し、大正10(1921)年には陸軍士官学校、昭和4(1929)年に陸軍大学校へ進学し、戦前は陸軍軍人として累進した。日中戦争勃発後は約7ヶ月間北支那方面に赴き、作戦を遂行し戦地を視察し、遺された書簡には、戦地で見聞したことを青年皇族や家族に伝えた様子が窺われる。

帰国後は陸軍大学校教官などを歴任し、昭和17(1942)年に戦車第5連隊長に就く。昭和20(1945)年8月15日には、天皇の名代として南方(サイゴン)に差遣され、派遣軍へ終戦を伝達した。春仁王は、載仁親王没後から皇籍離脱までの約2年半閑院宮を継ぎ、戦後は閑院春仁(のち純仁)と改名し、小田原の地を本邸と定め、亡くなるまで同地に居住した。



右から載仁親王、恭子女王、春仁王『婦人画報』明治43(1910)年5月より転載

会期:平成27(2015)年2月27日(金)～3月18日(水)  
会期中無休  
開館時間:9時～17時まで(入館は16時30分)  
会場:小田原文学館1階第2展示室  
主催:小田原市立図書館

小田原ゆかりの皇族

閑院宮を知る

小田原文学館

## ごあいさつ

図書館では、館が保管する古文書・古写真等の貴重資料についての講演・展示などによって小田原の歴史に親しみ、学んでいただく機会として図書館総合歴史講座を開催してまいりました。このたび、3月7日に開催される講演会「小田原ゆかりの皇族閑院宮載仁親王と昭和天皇 閑院宮資料と『昭和天皇実録』から読み解く」に合わせ、小田原市立図書館が所蔵する閑院宮資料の公開をおこないます。

江戸中期から続く四親王家の一つある旧閑院宮は、明治期以降、2代にわたり小田原に滞在した、この地に縁の深い皇族です。

閑院宮6代載仁親王は、小田原別邸を設けた明治39(1906)年から薨去の昭和20(1945)年まで断続的に滞在し、晩年はほとんど小田原に居住しました。親王は、大正10(1921)年の皇太子(裕仁親王)外遊に皇族として唯一随伴し、戦時中には陸軍参謀総長として二・二六事件の対応を迫られるなど、宮中や政治において重要な役割を果たしました。

閑院宮7代春仁王(のち、閑院春仁、閑院純仁)は、健康上の理由から、小田原中学校(現小田原高校)に進学し、大正2(1913)年から大正10(1921)年までこの地に滞在し、小田原の学友とともに学びました。戦後、昭和21(1946)年から亡くなる昭和63(1988)年まで小田原に居住しました。

近代の小田原は、交通網の発達や温暖な気候などが宮内官僚や政財界人、文学者などの多くの人を魅了し、別荘地として発展しました。

このような歴史的特性を踏まえ、現在小田原市では、小田原文学館・松永記念館・清閑亭などの政財界人の邸宅跡を、まちあるきや展覧会、講演会などの文化活動の拠点として活用し、まちの魅力を再発見する事業に取り組んでいます。このように小田原に別邸文化が開花した大きな契機として、明治30年代半ばから後半にかけての小田原御用邸と閑院宮の別邸設置に伴い、山県有朋や清浦奎吾、黒田長成など皇室と関わりの深い政界人が別邸をかまえたことがあります。

今回の講座が、2代にわたって長く小田原に居住した閑院宮や近代小田原の魅力について、お考えいただく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本展開催にあたり、貴重な作品・資料の提供、調査等に御協力頂きました梶田明宏氏、小田原高校同窓会を始めとする皆様にあつく御礼申し上げます。

平成27年2月 小田原市立図書館

## 第一章 閑院宮の歴史

宝永7(1710)年～昭和22(1947)年まで継続した閑院宮の初代は、江戸中期の113代東山天皇の皇子直仁親王に遡る。6代將軍家宣の政策を主導した新井白石は、当時の親王家が伏見宮、桂宮、有栖川宮の3宮のみで、さらに天皇の皇子・皇女も出家する慣例であったことを憂い、皇統確保の万全を期するため、新しい宮家の設立を提案した。これを受け、家宣は宮家新設を朝廷に建議し、閑院宮創設となった。江戸期の閑院宮は、直仁親王、典仁親王、美仁親王、孝仁親王、愛仁親王と5代続いた。書画・和歌、雅楽、書道など芸術に秀でた家系であったことが、閑院宮に伝わった宝物の目録などから窺われる。閑院宮から119代光格天皇(2代典仁親王の王子兼仁王)が出た。

### 主な展示品

- ・「外御蔵御長棹内御宸翰並御書物御手元台帳」小田原市立図書館蔵 閑院宮に伝わった宝物目録。天皇や歴代当主の書画が主となる。
- ・真覚「倭漢朗詠集」享保19年2月下旬、小田原市立図書館蔵 料紙装飾が施された和本。春仁王妃直子の旧蔵本。
- ・「閑院宮家御歴代御墓所御写真帖」小田原市立図書館蔵 近世閑院宮の菩提寺にある歴代閑院宮墓所の写真帖。

## 第二章 近代以降の閑院宮

閑院宮5代愛仁親王は25歳で夭折し、親王には後嗣がいなかったため、4代孝仁親王妃が家主同格として約30年間宮家の維持にあたった。明治5(1872)年に伏見宮邦家親王の王子載仁親王が後嗣となり閑院宮家を継承し、祭祀や代々の書画什宝類を受け継いだ。6代載仁親王、7代春仁王で断絶した。また、昭和22(1947)年には日本国憲法制定にともない、閑院宮を含む伏見宮系の11宮家は皇籍離脱した。閑院宮は、東京永田町に本邸を置き、明治39(1906)年より小田原に別邸を構えたが、進駐軍による本邸接収にともない、春仁王は昭和21(1946)年に小田原別邸を本邸と定め、逝去の昭和63(1988)年まで小田原に居住した。

### 主な展示品

- ・倉光順一郎編「載仁親王殿下御幼年時代御履歴」写、小田原市立図書館蔵 載仁親王の幼少期から青年期までの履歴に関する綴り。
- ・「載仁親王日記」大正10年、小田原高校同窓会所蔵 日本初の皇太子ヨーロッパ外遊に随伴した載仁親王の日記。
- ・「御転地日記 第二号」昭和11年、小田原市立図書館蔵 二・二六事件発生当時の小田原別邸における載仁親王の動向が分かる新資料。